

◆第2部 分野別施策の実施状況

第2節 環境情報の収集・提供

1 科学的調査研究と技術開発の推進

(1) 環境分野の調査研究

県では、衛生環境研究センターを中心として、大気汚染や水質汚濁等について、監視・調査等を行うほか、他の公設試験研究機関と協力して環境分野の

調査研究を進めています。環境分野の調査研究は、対象となる範囲が広く、また短期間では成果を出しにくいことから長期的な視点で行う必要があります。

表6-2-1 環境分野の調査研究

①衛生環境研究センター【環境政策課】	
大気や河川・湖沼・海域および地下水等の環境汚染の発生や拡大を防止するための測定や調査研究、環境関連技術の開発	
○光化学オキシダント等の越境汚染に関する調査研究 【平成22～26年度】	移動測定車みどり号（p.103参照）を活用して高地での観測を行い、平野部の測定局での結果と併せて解析し、本県への越境汚染の影響を明らかにします。
○県内スギ・ヒノキ花粉の飛散予測および情報提供に関する研究 【平成24～26年度】	福井県内の花粉量測定結果と翌日の飛散予測等をホームページにて情報提供しています。
○福井県における残留性汚染物質（POPs）動態解明と低減化に関する研究 【平成26～28年度】	難分解性や生物への有害性が高いPOPsである臭素系難燃剤（HBCD）について、県内における汚染実態と排出要因を明らかにします。
○福井県におけるPM2.5高濃度時の挙動解明に関する研究 【平成26～28年度】	県内のPM2.5が高濃度となる条件・要因を解析し、適切な県民への注意喚起に役立てます。
○湖沼中の難分解性有機物に関する挙動解明に関する研究 【平成26～28年度】	微生物に分解されにくい難分解性有機物について、三方湖における分解挙動や分布状況を明らかにします。
○跡地利用された最終処分場における安定化に関する研究 【平成26～28年度】	埋立地に太陽光発電施設を設置した最終処分場の汚水の水質分析やガスの発生挙動などを調査し、安定化の進行に及ぼす影響を明らかにします。
○微小粒子状物質（PM2.5）の環境中の挙動と発生源の寄与に関する研究 【平成26～29年度】	大陸からの越境大気汚染が考えられるPM2.5の成分調査を実施し、高濃度原因を明らかにするとともに地域に応じたPM2.5対策に役立てます。
○福井県におけるオキシダント高濃度予測手法の構築 【平成27～28年度】	福井県独自のオキシダント高濃度予測手法を確立し、光化学スモッグによる健康被害の防止に役立てます。
②工業技術センター【地域産業・技術振興課】	
県内産業の活性化に向けた様々な分野の研究開発、環境関連技術の開発	
○熱可塑性繊維とリサイクル炭素繊維による不織布製造技術の研究 【平成26～28年度】	リサイクル炭素繊維と熱可塑性繊維を混合し、物性に優れ、安価に複合材料化できる熱可塑性複合材料用繊維素材を開発します。
○櫛形電極センサの開発研究 【平成26～28年度】	櫛形電極の電気化学反応を応用した、金属腐食原因物質や細菌等の有害物質と反応するセンサを研究開発します。

③建設技術研究センター【土木管理課】 本県の自然条件および経済社会条件を踏まえ、環境負荷の少ない雪対策技術や自然との共生、リサイクルの推進に対応した建設技術の研究開発	
○自然エネルギーを利用した融雪における新たな熱交換方式の開発 【平成24年度～26年度】	地中に埋め込む熱交換杭を安く施工できるようにして地中熱利用システムのコストを削減し、普及を図ります。
○マイコンを使った積雪センサーの開発 【平成26年度～28年度】	路面の状況を的確に把握して稼働させる積雪センサーを開発し、従来の降雪を検知するセンサーに比して稼働時間の短縮を図ります。
○舗装ひび割れの接着による耐久性回復工法の開発 【平成26年度～28年度】	舗装のひび割れを接着し耐久性を回復させる材料および施工方法を開発し、舗装の原料である石油資源の消費を減らすとともに、廃材の排出量を少なくします。
④農業試験場【生産振興課】 化学合成農薬や化学肥料の使用量を抑えた環境にやさしい農産物の生産・供給のための研究開発	
○クリムソクローバーの時期別肥効の明確化による水稲収量品質の向上技術 【平成24年度～26年度】	緑肥植物「クリムソクローバー」の栽培管理法、すき込み時期・方法を研究し、基肥にクリムソクローバーをすき込み、穂肥は有機質肥料を用いる、化学肥料を用いない水稲栽培法を確立しました。
○直播圃場で多発する新型ニカメイガの被害を減らす総合的防除技術の確立 【平成25年度～27年度】	「ニカメイガ」の発生生態を明らかにして、秋の田起こしや冬期の水張り等、農薬に頼らない防除方法を開発して、水稲直播栽培でのニカメイガ被害による減収を防ぎます。
○生き物にやさしい“ポストこしひかり”特裁技術の確立 【平成26年度～29年度】	平成30年度の「ポストこしひかり」の作付開始に向けて、環境にやさしい米づくりをさらに発展させるため、里山の象徴であるホタルなどの生き物に優しい栽培技術を確認します。
⑤総合グリーンセンター【森づくり課】 多様な森林の育成や保護管理技術など環境関連技術の研究開発	
○人工交配による県産無花粉スギの開発 【平成23年度～29年度】	花粉症軽減対策として、県内精英樹と県外無花粉スギとの人工交配による県産無花粉スギを作出します。
○シカの侵入を防ぐ新型フレームの開発 【平成25年度～27年度】	シカの侵入をブロックする新型の軽量フレームの開発を行います。
○シカ被害に強い植生回復技術の開発 【平成26年度～27年度】	シカの不嗜好性植物を利用して、土壌侵食を防ぐための植生回復技術の開発を行います。
⑥若狭湾エネルギー研究センター【電源地域振興課】 バイオマスを用いた湖沼の水質浄化や有用物質生産に関する研究開発	
○バイオ技術を用いた汽水湖沼浄化 【平成27年度～平成29年度】	イオン加速器による品種改良で作り出した耐塩性の陸生植物や高機能微生物を用いて、汽水を含む水域の富栄養化物質を吸収する技術の開発を行います。
○農林水産廃棄物の加熱分解による有用物質生産 【平成27年度～平成29年度】	木質バイオマス、もみ殻、海藻など広範囲の農林水産廃棄物を加熱分解により減容するとともに、エネルギーや化学原料等の資源として活用する技術の開発を行います。

◆第2部 分野別施策の実施状況

(2) 産学官による研究開発支援【電源地域振興課、地域産業・技術振興課】

県では、嶺南企業等が、原子力・エネルギー分野をはじめ、地域産業の活性化や環境分野に関連して新たに取り組む研究開発を支援しています（公益財団法人若狭湾エネルギー研究センターの「嶺南地域新産業創出モデル事業」による支援）。

○嶺南地域新産業創出モデル事業補助金

- 放射線照射技術を活用した強化樹脂製品の開発
【平成25年度～26年度】
- オゾンを用いた工場排水等の浄化システムの実用化研究
【平成26年度～】
- 酸や水などの油劣化要素の除去技術を用いた油浄化装置の開発
【平成27年度～】

また、公募型の研究開発費を活用して企業や大学が行うヒートパイプの研究開発に、公益財団法人若狭湾エネルギー研究センターが協力しています。

○新エネルギーベンチャー技術革新事業【NEDO】

- 気泡駆動型循環式ヒートパイプによる無動力地中熱源活用技術の開発
【平成23年度～24年度】

県内外の企業、大学、県が参画するe-テキスタイル製品開発研究会において、太陽光発電織物を用いた製品開発および事業化を目指しています。

- スポーツウェア用太陽光発電テキスタイルの試作開発
【平成27年度】

(3) 環境関連産業に対する支援【産業政策課、企業誘致課、地域産業・技術振興課】

県では、融資および補助などにより、環境関連ビジネス分野への新規参入や事業拡大に向けた取組みに対して、支援しています。

また、産業支援機関等と連携し、技術開発や経営

支援施策等に関する情報提供や相談・助言、公害防止や環境保全に必要な機械設備導入への支援などを行っています。

表6-2-2 環境関連産業に対する主な支援制度

支 援 制 度	問 合 せ 先
<p>○企業立地促進補助金・企業立地促進資金融資</p> <p>製造業、試験研究所等を対象として、県や市町の誘致企業で、投下固定資産額や新規雇用者数等について一定の要件を充足する企業に、補助や融資を行っています。</p>	<p>県企業誘致課 企業立地推進グループ 電話 0776-20-0375</p>
<p>○専門家派遣事業</p> <p>中小企業者の省エネルギーやコストダウンへの取組みを支援するため、専門家を派遣し、診断等を行います。 派遣費用の2分の1を負担いただきます（派遣費用の2分の1は支援センターが負担）。</p>	<p>公益財団法人 ふくい産業支援センター ふるさと産業支援部 電話 0776-67-7400</p>
<p>○産学官金連携技術革新推進事業補助金</p> <p>本補助金は、本県のものづくり企業が、大学・公設試・金融機関と連携して行う革新的な技術開発・試作品開発を支援し、研究成果の早期事業化と福井発の新たなビジネスの創出を図ることを目的とします。</p> <p>【対象事業】 県内企業が、大学・公設試・金融機関等と共同で行う技術開発・試作品開発 【対象企業】 県内企業または県内企業グループ 【事業期間】 1年（平成28年3月まで） 【補助率】 2／3以内 【補助限度額】 1,000万円／件 【補助対象経費】 消耗品費、機械装置費等の他、直接人件費、販路開拓費</p>	<p>県地域産業・技術振興課 電話 0776-20-0374</p>

(4) 県民・団体・企業等との連携の強化【環境政策課】

①環境ふくい推進協議会

環境保全活動を推進していくためには、県民、団体、事業者、行政がお互いに協力し合い、取り組んでいくことが重要です。

このため、県では、県民、団体、企業で構成する環境保全ネットワーク「環境ふくい推進協議会」の運営を支援し、情報紙の発行やシンポジウムの開催などを通じ、環境保全に関する意識の啓発を図ってきました。

環境ふくい推進協議会は、県民が一体となって進める環境保全に関する県民運動を実践することを目的として、平成6年10月に設立された団体です。協議会では、環境保全活動の輪を広げるための様々な

事業を展開しています。

環境ふくい推進協議会会員数	
(平成28年1月末現在)	
企業会員	225社
団体会員	108団体
個人会員	1,002人

また、環境ふくい推進協議会では、県内における企業、団体、行政等の環境に関する活動や情報の共有を図るため、専用のホームページを開設しています。このページでは、各主体が環境に関するイベント情報やお知らせを自由に掲載、閲覧することができ、情報共有の場として活用しています。

分野別施策の実施状況

表6-2-3 環境ふくい推進協議会の主な取組み

主な取組み	平成27年度
環境保全活動促進協働事業	1 協議会会長表彰 2 ふくいまるごと環境学び舎 3 環境マネジメント推進事業 4 市町環境連携事業 5 こどもエコクラブ活動促進事業 6 SATOYAMA国内ネットワーク推進 7 環境フェア
普及広報事業	1 情報誌発行事業「みんなのかんきょう」 2 ホームページによる普及広報 3 メールマガジンの配信による普及広報 4 「ふくいっ子に体験して欲しい50の自然体験」ガイドブックの作成
県補助事業	1 環境アドバイザー派遣事業 2 ものを大切にする社会づくり事業
団体助成事業	環境ふくい未来創造事業



(URL <http://www.kankyoku-fukui.jp/>)

図6-2-4 環境ふくい推進協議会ホームページ画面

横断的・基盤的な施策の推進

◆第2部 分野別施策の実施状況

(5) 環境に関する表彰

県では、地域で様々な環境活動を行っている個人や団体の努力に報いるため、また、今後の活動の励みとしていただくため、積極的に各種表彰制度に推薦しています。また、応募形式による表彰制度につ

いても、対象者等に情報提供などを行っています。

平成26年度において表彰を受けた個人や団体等は、表6-2-5のとおりです。

表6-2-5 環境に関して表彰を受けた個人・団体・企業・学校（平成26年度）

表彰名	目的等	表彰者	被表彰者
環境美化教育優良校等表彰	環境美化に独創的、熱心に取り組み、食品容器の散乱防止やリサイクルの実践教育に優秀な成果のあった小中学校を表彰	社団法人食品容器環境美化協会会長	【協会会長賞】 福井市社中学校（福井市）
環境ふくい推進協議会会長表彰	環境保全活動に関し、地道にたゆまぬ努力を続けている個人、団体、学校、企業で、その活動が賞賛に値する者を表彰	環境ふくい推進協議会会長	【個人の部】 岸本 修（越前市） 谷口 真栄（鯖江市） 山崎 俊太郎（美浜市） 【団体の部】 特定非営利活動法人足羽川ふるさと元気の会（福井市） 越の郷地球環境会議（鯖江市） 坂口エコ農法部会（越前市） 野向町まちづくり推進委員会（勝山市） 【学校の部】 坂井市立雄鳥小学校（坂井市） あわら市吉崎小学校赤手ガニ環境調査隊（あわら市） 勝山市立村岡小学校（坂井市） 【企業の部】 山田兄弟製紙株式会社（越前市）
第13回ごぶん賞	生命の源である、水に関係した内容の作文・童話・詩・手紙を小中学生から募集し、すぐれた作品について表彰	ごぶん賞実行委員会会長	【準ごぶん大賞】 あわら市立金津中学校 古橋 郁乃（あわら市）
愛鳥週間用ポスター原画コンクール表彰	ポスターの制作過程を通じて野生鳥類についての保護思想を高めるとともに、愛鳥週間の普及啓発を図るため優秀作品を表彰	福井県知事	【知事賞】 田中 陽悠（福井市立文殊小学校） 青木晃太郎（越前市立武生第三中学校）

2 環境情報の整備と提供【環境政策課】

県民や事業者の環境への関心を高め、環境への負荷の低減に向けた取組みを促進していくためには、環境に関する幅広い情報をわかりやすく、迅速に提供することが重要です。県では、インターネットや情報紙など様々な媒体を通じて、環境情報を提供しています。

(1) 「みどりネット」の整備、運用

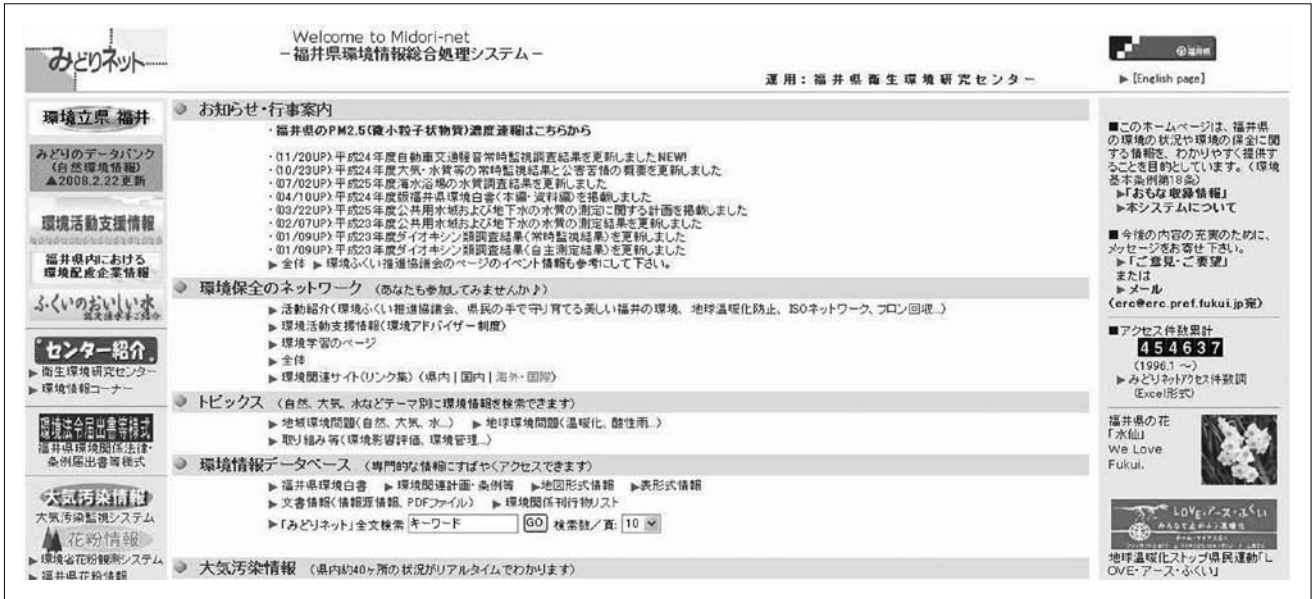
県では、各種の環境情報をデータベース化し、行政内部での活用にとどまらず、広く県民に提供する「環境情報総合処理システム」を平成12年3月に整備しました。

このシステムは、大気や水質等の環境状況をはじめ、自然環境、土地利用状況、文化財等の環境情報をデータベース化し、地図や表などによりビジュアルに表示するもので、インターネットのホームページ「みどりネット」から利用できます。

みどりネットのアクセス件数（ページビュー）は、次のとおりです。

表6-2-6 みどりネットのアクセス件数

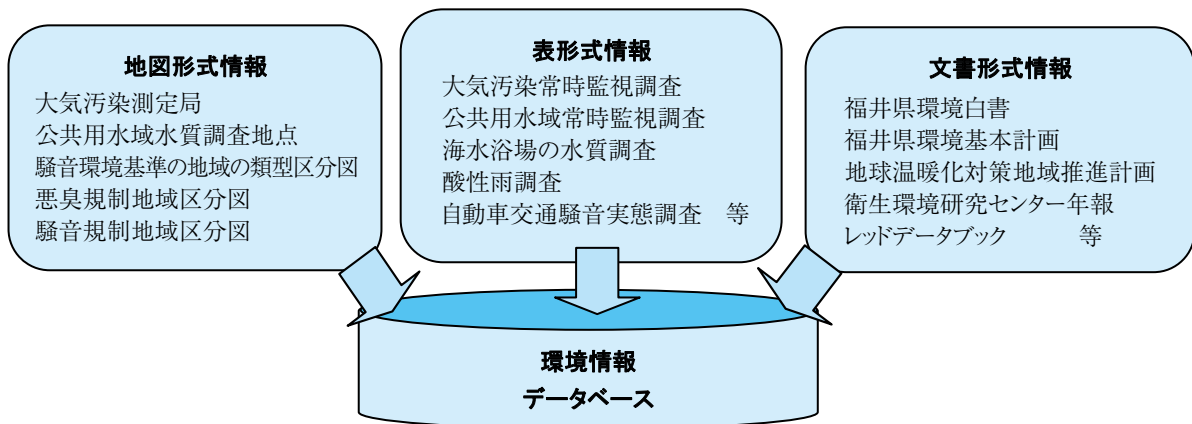
	24年度	25年度	26年度
アクセス件数	4,016,463	4,236,671	4,523,537



(URL <http://www.erc.pref.fukui.jp/>)

図6-2-7 環境情報総合処理システム（みどりネット）画面

1 環境情報のデータベース化



2 環境情報のビジュアル化

データベース化された多様な情報を、地図や表等によりビジュアルに表示します。



図6-2-8 環境情報総合処理システムの概要

分野別施策の
実施状況

横断的・基盤的な
施策の推進

◆第2部 分野別施策の実施状況

(2) 環境月間中のイベント情報提供【環境政策課】

環境基本法に定められた6月5日の「環境の日」を中心とする6月の1か月間は、「環境月間」とされています。県においても、県民の環境問題への関心と理解を深め、環境の保全に関する活動を行う機

会とするため、6月を中心に様々な行事を実施するとともに、環境に関する行事を取りまとめ、ホームページ等で紹介しています。

表6-2-9 平成27年度「環境月間」の主な実施行事 テーマ「県民の手で守り育てる福井の環境」

【県民参加行事】

行事名	実施主体(所管)	内 容	実施日	実施場所
カー・セーブデーの実施	交通まちづくり課	過度なクルマの利用を控え、公共交通機関や自転車等の利用促進および二酸化炭素の排出量削減のため、毎週1回を目標に「カー・セーブデー」を実施し、全県的に推進を図る。	毎週金曜日	県内全域
クールビズの実施	環境政策課	冷房28℃と軽装(ノー上着、ノーネクタイ)勤務を実施する。	5/20(水)～ 9/30(水)	県、市町、 賛同事業所
クリーンアップふくい大作戦	県、市町、環境ふくい推進協議会、(社)あすの福井県を創る協会等	統一行動期間に各市町が設定する拠点地区や居住地周辺、工場・事業場周辺等の一般地区において清掃、草刈、植栽、花だんづくりを行うなど、県民、各種団体、行政が一体となって美化活動を実施する。	統一行動期間 6/7(日)～ 6/14(日) (季節ごとに 年4回実施)	県内全域
フラワーグリーンフェア'15 第5回みどりと花の県民運動大会	県、(公社)福井県緑化推進委員会	第60回全国植樹祭を契機に展開している「緑と花の県民運動」を推進するための中心的なイベントとして、緑と花に関する功労者の表彰や、緑や花と身近にふれあえる様々な体験型イベントを実施します。	6/6(土) 6/7(日)	総合グリーンセンター
緑の教室	総合グリーンセンター	身近な緑づくりが実践できるよう、緑の知識を深める。	6/11(木) 6/21(日)	総合グリーンセンター
花づくり講座	総合グリーンセンター	花を育てるための基礎知識が学べる講座を開催する。	6/13(日)、 6/14(日)、 6/21(日)、 6/28(日)	総合グリーンセンター
花のスクールステイ	総合グリーンセンター	花と緑にあふれるふるさと活動(花のスクールステイ)にて、スクールステイ花苗の育成指導を行う。	環境月間中	総合グリーンセンター
環境科学体験教室	衛生環境研究センター	身近な水・空気の汚れ測定体験コーナーなどで環境科学を体験します。	6/8(日)	文書館
天体観望会	自然保護センター	県自然保護センター周辺での観望会を通して自然環境についての理解を深めます。	毎週土曜日	自然保護センター
自然観察会	自然保護センター	自然保護センター周辺での観察会を通して自然環境についての理解を深める。	毎週日曜日	自然保護センター
スノーケリング指導者養成講座	海浜自然センター	海の自然環境の理解を深めるためのスノーケリング教室の指導者を養成する。	6/28(土)～ 6/29(日)	海浜自然センター

【普及啓発事業】

行事名	実施主体(所管)	内 容	実 施 日	実 施 場 所
広報活動	広報課 環境政策課	新聞、テレビ、各種広報紙、ポスター等で月間の趣旨や、環境美化に対するPRを実施する。	環境月間中	県内全域
環境意識啓発パネル展	福井健康福祉センター	環境問題に関するパネル等を展示し、意識の高揚、啓発を行う。	環境月間中	福井健康福祉センター
展示 土と水と一環境を考える	県立若狭図書学習センター	地球上で生きるもの全てに欠かせない「水」と豊かな食糧を育む「土」。身近な「水」と「土」と「環境」について考える本の特集を行います。	5/29(金)～ 6/24(水)	県立若狭図書学習センター
環境保全の調査研究展示	衛生環境研究センター	センターで行っている環境保全の調査研究をパネルやポスターで展示し、環境保全への取り組みの周知、意識啓発を図る。	6/1(月)～ 6/8(月)	商工会議所

分野別施策の
実施状況

【監視・指導強化】

行事名	実施主体(所管)	内 容	実 施 日	実 施 場 所
環境パトロール	環境政策課 各健康福祉センター	ばい煙発生施設、特定施設等を設置する工場・事業場の立入検査を行う。	環境月間中	県内全域
	循環社会推進課 各健康福祉センター	工場・事業場、自然公園、廃棄物処理施設、畜産施設、道路、河川、海岸等のパトロールを実施する。	環境月間中	県内全域
	自然環境課	自然公園内およびその周辺の違法行為等の監視を行う。	環境月間中	各国立公園・ 国定公園等
スカイパトロール	循環社会推進課 県警生活環境課	県警ヘリ「くずりゅう」による空から廃棄物の不法投棄等発見のための監視パトロールを実施する。	環境月間中	県内全域
環境犯罪取締り	県警本部生活環境課 県下各警察署	廃棄物の不法投棄、野外焼却事犯等の環境事犯の取締りを実施する。	環境月間中	県内全域
大きさにびっくり!湿地のギャングウシガエル大作戦!!	海浜自然センター	三方湖周辺での繁殖が著しい特定外来種「ウシガエル」の駆除体験を通して、環境保全について考えます。	6/6(土)	三方湖周辺
合同路上検査	循環社会推進課	滋賀県と合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	6月24日(水)	福井県、滋賀県
		石川県と合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	6月4日(木)、 6月18日(木)	4日(木):石川県 18日(木):福井県
		岐阜県と合同による産廃積載車両の路上検査を実施する。	環境月間中	福井県、岐阜県

横断的・基盤的な
施策の推進

◆第2部 分野別施策の実施状況

(3) 刊行物

【環境政策課、循環社会推進課、自然環境課】

水、大気、自然、廃棄物等の様々な環境の課題や、県の取組み等について、情報紙やパンフレット等の刊行物の作成・配布を行い、環境に関する情報

を提供しています。また、これら刊行物の一部は、県や環境ふくい推進協議会のホームページ、みどりネットにも掲載しています。

表6-2-10 平成26年度 環境関連刊行物

刊行物の名称	発行状況	頁数	発行部数	備考
みんなのかんきょう	年1回67号	20	3,000	環境ふくい推進協議会情報誌
平成26年度版 環境白書	年1回	147	700	
平成26年度版 環境白書（資料編）	年1回	110	150	
平成25年度 公共用水域および地下水の水質の測定結果報告書	年1回	104	150	
平成27年度 公共用水域および地下水の水質の測定に関する計画	年1回	48	150	
産業廃棄物中小排出事業者向けパンフレット	随時	4	50,000	
福井県認定リサイクル製品パンフレット	年1回	12	1,200	
平成25年度福井県衛生環境研究センター年報	年1回	156	350	
衛環研だより第15号、第16号	年2回	4	Web配信	
平成26年度福井県鳥獣保護区等位置図	年刊	図1枚	2,400	
ナチュラリスト	年3回 72~74号	12	2,300 2,000 2,000	自然保護普及啓発誌
平成25年度年報（福井県自然保護センター）	年刊	38	600	福井県自然保護センター事業概要
海遊（活動の記録）第14号	年刊	25	HPで公開	福井県海浜自然センター事業概要
自然保護センター・海浜自然センター行事案内	年刊	2	10,000	
平成27年度カレンダー	年刊	1枚	2,500	
海浜自然センターリーフレット	随時	8	30,000	
天体観測ガイド「夏」	随時	2	2,000	
自然保護センターリーフレット	随時	2	1,000	
「ふくいのおいしい水」パンフレット	随時	64	3,000	